

第44回 高橋記念賞

高橋記念賞は、故高橋愛次氏の功労を記念し、扶桑軽合金株式会社（現 株式会社アーレスティ）より寄贈された基金により、軽金属鋳物、ダイカスト、展伸材、二次合金および再生地金等の溶解・鋳造に関連する工業技術の進歩発展に功労のあった技能者に贈る。



葛西 則政 君
(株式会社神戸製鋼所)

葛西 則政 君は、1990年に株式会社神戸製鋼所に入社以来、30年以上にわたって真岡製造所の溶解室に従事している。その間、「安全活動や生産性の向上」、「各種製品向け素材開発」、「鋳造スラブの製造」、および「スクラップの再利用促進」など、様々な分野で数多くの成果を挙げてきた。特に鋳造スラブ製造における新工程（スライスフライス工程）の導入に当たっては、中心的役割を担い、切削条件、切削油等の改善を通じ、課題となっていた熱交ラッド材向け素材の量産化に大きく貢献した。近年では二次合金メーカーと協同し、スクラップ形状の最適化および比重アップの改良に携わっている。それにより1バッチあたりにおける市中アルミニウムくず溶解量の増加、ひいてはその使用量増加を達成している。活動の付帯効果として、市中アルミニウムくずの運搬効率向上および所内置き場創出にも寄与した。同君は現在、生産現場のリーダーとして、長年にわたり培った技術と経験を活かし、新しい世代への技能継承および人材育成に尽力している。またCO₂排出量削減およびスクラップのリサイクル率向上など、カーボンニュートラルに向けたさらなる課題にも積極的に取り組んでいる。



松本 守 君
(株式会社UACJ)

松本 守 君は、1987年に住友軽金属工業(株)（現(株)UACJ）に入社し、34年間にわたり一貫してアルミニウムのスラブおよびビレットの溶解・鋳造、さらにはドロス処理に関わる業務に従事し、現在に至っている。この間、国内最大級のスラブ鋳造機を立ち上げる際に、効率の良い作業動線を考慮した操作盤のレイアウトの検討や、効率良く稼働させるための作業手順の確立に尽力した。また、設備立ち上げ後は、作業リーダーとして設備の安定稼働はもとより、生産能力を最大限引き出すために溶解作業や鋳造作業の段取り時間の短縮などにも取り組み、スラブ生産量の向上に大きく貢献した。その後、現場作業組を統括する監督職に就任し、現場を指揮しながら率先して改善活動に努め、約10%のスラブ生産能力向上を実現した。さらに浸漬溶解炉とドロス処理の職場を担当し、浸漬溶解炉の能力向上に努め、浸漬溶解量を約10%向上させるとともに、ドロス処理におけるアルミ分の回収率向上にも努め、約5%のアルミ分の回収率向上も達成した。近年はスラブ鋳造職場長として、さらには鋳造工場の安全担当として、リスクアセスメントを行いながら溶解・鋳造時に必要とされる保護具の改良や、暑熱作業での仕組みの改善に努め、現場の作業一人ひとりが安全に、そして安心して働ける職場の確立に向け尽力している。また、現場作業で必要とされる技能伝承のために製板技塾の講座長として、これまで自身が経験し、そして学び得てきた現場主体のグループ改善活動の進め方や取り組み方などを指導し、若手作業者の育成にも努め現場の活性化に尽力している。